

フェイスブック(FB)

【セクター】 通信サービス

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

世界最大のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を運営する企業です。「フェイスブック(Facebook)」、写真共有SNSの「インスタグラム (Instagram)」、メッセージアプリの「メッセンジャー(Messenger)」、「ワッツアップ(WhatsApp)」などを運営して、中国を除く世界のSNSサービスで圧倒的なシェアを保有しています。売上の48%を米国・カナダが占め、99%を広告収入が占めます(18年12月期)。4つのアプリ合計では、月1回以上利用する人が約27億人、いずれかのアプリを毎日利用する人が約21億人に達しています。

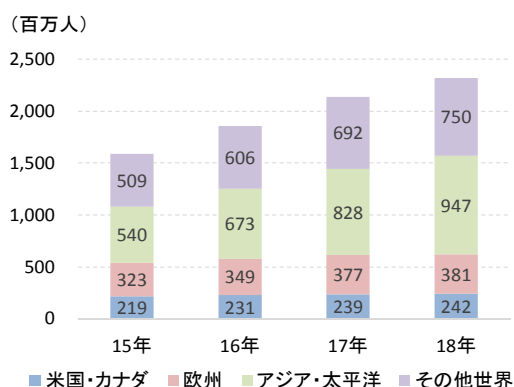
【業績】 (単位: 売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%)

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	40,653	18,193	6.16	0.00	25.6	27.2	88.0
18年12月期	55,838	22,111	7.57	0.00	29.5	27.9	86.4
19年12月期予想	69,404	25,764	8.55	0.00	35.6	22.9	-

※EPS: 1株当たり利益、DPS: 1株当たり配当、BPS: 1株当たり純資産、ROE: 株主資本利益率 (出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

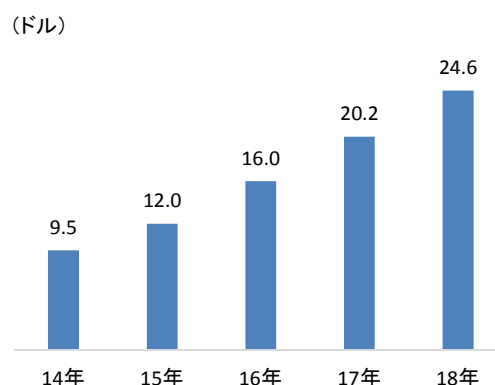
【主要指標】

図表1 「フェイスブック」の月間アクティブユーザー数



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 ユーザー当たり売上高



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

SNSはネットワーク効果(潜在的な顧客にとっての物やサービスの価値が、既にその物・サービスを利用している顧客の数に依存すること)が大きいことから、同分野で同様に追いつくのは非常に難しくなっていると考えられ、これが同社に質の高い利益成長を期待できる根拠となっています。データ流出事故の影響もあって広告単価の上昇は鈍っているものの、「フェイスブック」以外の事業の収益化により2割超の売上成長が維持されています。

【見通し・注目点】

19年中は売上成長の鈍化が続き、下半期にはターゲット広告のポリシー変更によるマイナスも想定されています。一方、営業費用についても前年比40~50%増から同37~45%増へ下げています(米連邦取引委員会の調査に対して引き当てた30億ドルを除く)。同社は現在プライバシーを重視したプラットフォームを構築中で、これは足もとの業績を不安定にする可能性があるものの、これまで「フェイスブック」や「インスタグラム」にプライバシーが乏しいことで利用しなかったユーザーの獲得が期待され、長期の成長にはポジティブと考えられます。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/5/29)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮してのものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。